

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社 宇宙 SORA		
事業所名	グループホーム えがおの里 浜北 (ももユニット 南側)		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102番地		
自己評価作成日	平成28年7月29日	評価結果市町村受理日	平成28年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&jiyosvoCd=2297200376-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の基本理念を念頭に「その人がその人らしく」を大切に「一人ひとりの思いを尊重した介護」を目指しています。
 地域との関わりも大切にし、散歩などの際には挨拶を交わす等の、地域の方々とのコミュニケーションを図ったり、地域ボランティア活動の積極的な受け入れなど交流を図っています。敷地内には「えがおの里農園」と称し、季節ごとの野菜を育て、入居者の方々に手伝って頂きながら、野菜の収穫をし、食事の時に提供しています。その他に、毎月イベントやドライブ、買い物なども定期的に行う事で、季節を楽しみながら生活して頂けるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蝉の声に囲まれて真っ白な洗濯物と木々が風にそよぐなか、トンボが舞う姿を目で追っている
 と懐かしい気持ちになる事業所です。法人内の他市事業所から異動の管理者は着任から1年となり、地域の状況把握も確かとなっています。また職員も本年2月、3月の、社内研修会で法人の方針を理解し、統括マネージャーによる目配りと「職員あってこそその～」との謙虚な姿勢でフォロー型支援を日々おこなう管理者を以て、温かい職場環境がつけられています。また本年2月から環境、身体拘束虐待防止、感染症、防災、4つの委員会が発足したことや、他法人で管理者だった人財が加わったことで新たな視点と変化が生まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関・事務所に掲示し、毎日の朝礼時に唱和している。定期的に社内研修を行い、全スタッフに法人の基本理念の意識づけができるよう、教育を行っている。	本件は年間研修に位置付けられ、2月、3月に社内研修を開催しています。経験者が新任者の戸惑いを気に向け、特に「支え合う」については職員の浸透がみられます。また職員の挨拶が徹底していることも「感謝する心」に通じていることが伝わります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的な散歩の近隣とのコミュニケーションや地域ボランティアを積極的に受け入れ、イベントを開催し交流を深めている。地域の行事にも参加したり、事業所の行事にも来て頂いている。	バーベキューをやっていると自然に住民が集まる広い駐車場は、夏季には虫取りや朝からラジオ体操で賑わう日もあり、利用者も自室から眺めて愉しみます。事業所の秋まつり、生徒の体験訪問等交流の場が設けられ、「看板が解りにくい」との課題には検討が進められています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年1月に地域包括支援センター主催の「こんな時どのようにケア(介護)したらいいの」に法人から講師として招かれ、認知症の方を家族に持つ方が、他の悩みや支援方法を話し合う機会ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の9月より管理者が交替してからは、2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。今後も、引き続き継続的に開催し、施設運営状況の報告、議案を提示し、情報交換に努めたい。	エスケープへの対応についてガイドラインを欲したところ「専門家を招こう」との意見から警察・消防の支援を得ていく方向にあり、障がい者雇用にあたり「働く意欲があることが宝」との総意を以て事業所の取組みが促進されたりと、会議が有益に働いています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者に運営推進会議の案内を2ヶ月に1回届けている。また、特別な事情がない限りは出席して下さっている。市の担当者の方もなるべく参加出来る様になると話されている。	運営推進会議で貴重な行政助言が得られ、また地域包括支援センターからは在宅家族向けの認知症ケア講習会における講師依頼を受け、地域密着型事業所の責務を果たしています。また地域包括ケアに熱心な病院との地域情報の共有化も事業所の支えとなっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」を玄関、各ユニットに掲示し、スタッフも意識して介護にあたっている。小さなことでも拘束に繋がる事をスタッフ間でミーティングなどで話し合い、拘束をしない危険回避に努めている。	例えばセンサーマットでは「目的が何なのか」を明確にもつことの大切さを理解しあい、「職員都合での行為が拘束に当たる」との見解に至っています。また「座ってください」ではなく「立ち話もなんだから座る？」という投げかけができる職員も増えていきます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内での介護研修やミーティングの場などで、「何が虐待にあたるのか」正しい知識を持ち、教育を行っている。スタッフ間が注意喚起できる環境の整備と、入居者様の尊厳を尊重するような介護の実践を目指している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティングを通じ、権利擁護制度に関する理解を深めている。ご家族からの相談にも応じ、必要性の可否についての検討の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に伴う不安や、疑問の解消に努め、契約・解約・改定等、不安や、疑問点を尋ね十分な説明を行い、理解と納得をして頂いてから契約を締結している。また、締結後も疑問点等には随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には、利用者様・ご家族様・職員で会話ができる機会を設けており、そこで得られた情報を職員で共有し日々の介護に反映し、実践できるよう努めている。	「えがおだより」を発行するほか、面会時には少しでも家族と会話をもつよう意識してのアプローチで意思疎通を図っています。家族意見は重要と捉え、「玄関入口のスロープ何とかならないかな？」の進言も検討課題としています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を個別面談、ミーティング、朝礼時に個々管理者に上げるようにしており、実践している。	他法人から入職した役職経験者の気づきと、「職員あつての～」との姿勢をもつ管理者の姿勢が融合し、「これって拘束？」から会議の議題となる等ボトムアップの体制ができつつあります。また統括マネージャーの存在も大きく、相談先が複数というのも功奏しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定により、資格を取得した職員に対して資格手当を支給したり、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握した上で、毎年昇給を行うなど、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの実際と力量を把握するよう努め、介護マニュアルを活用し介護技術向上のため、研修を行っている。また、外部での研修の案内を職員に回覧し、希望者は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年11月に、行政主催の「介護保険事業所等情報交換会」に参加し、行政や同業者などと情報交換を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活歴や既往歴などの情報を基に、入居者の話を傾聴し、心身の状態から、できる事、できない事を判断している。傾聴しながら信頼関係を築き、他者との関わりなども観察しながら、新しい環境に慣れて頂くよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会などの際に、入居者の生活の様子や状態を伝えている。ご家族の希望や、相談を親身に傾聴し、入居者様、ご家族が安心できる信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望と状況を判断し、状態を見極めたうえで、必要なサービスの検討・実施を行うよう努めている。入居者にとってどうあるべきかをご家族と相談のうえ、必要であれば外部のサービスの利用ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴を活かし、グループホームでの生活が本人のペースに近付けるよう関わっている。入居者様と職員が共に暮らす「家族」のように談笑したりして、同じ目線で接し、関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会などに、一緒に過ごせる時間を大切にしている。入居者に変化が見られる時は、電話連絡し、状況の説明をしている。面会の時は、入居者の生活の様子を伝えている。家族が安心できるよう配慮し共に支えていく関係性を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が継続できるよう配慮し、面会などの時間は自由にされている。家の行事等で外出で帰宅される際は、家族と連絡を取り合い調整している。入居前までの人間関係も大切に出来るよう支援している。	自宅への一時帰宅、墓参、美容院、馴染みのスーパーマーケットでの買い物と、その人の希望に応じた支援があります。こだわりの化粧品を職員にリクエストしたり、珈琲好きな人には職員が時間になると用意しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し見守っている。馴染むことが困難な方には孤立しないよう座席を変えたり、職員がカンファレンスで話し合い、対応を検討している。トラブルに発展しないよう職員が間に入り、関わりを見守っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了になってからも連絡を取っているかたもいる。今までの関係性を大切に、必要に応じ相談等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにあった過ごし方を尊重しながらまた、共同生活における他者とのコミュニケーションが取れるよう、職員が橋渡しとなり、良い関係が築けるよう支援している。	「本人の意向に添いたい」想いは随時管理者に届き、連絡ノート、申し送り、朝礼での共有を経て、解決が難しい事柄は月1回のカンファレンス、ホーム会議で更に話し合われています。また本年からスタートした委員会活動も「利用者本位、の意識変容に一役買っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会等で来られたご家族との会話の中から、入居者の生活歴や、趣味などの情報を得ている。本人からも、何が楽しみなのか引き出せる会話作りを心がけ、一人ひとりに合ったケアを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を活用し、職員間の情報を共有している。日々の心身の変化などについても、その原因やケア方法を職員間で話し合い、ご本人の有する力が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体機能の低下に伴い変化があった場合、医師・看護師に報告、相談している。また、関係者から出た意見等を職員間で共有し、統一したケアが出来るよう努めている。	法令に基づく取組みはできていますが、計画作成担当者と介護支援専門員が中心で行い、職員には意見聴取が主になっていることから、「チームでつくる」という点においては若干の課題を残しています。ただし、本件には意欲的でセンター方式の導入も視野にいれています。	実践の確認やモニタリングのためのシート等、職員がプランに関わる仕組みを増やしていくことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践などについては、個人記録を記入し、職員間で共有している。また毎月ケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度変化する入居者、ご家族のニーズに耳を傾け、相談に乗り支援している。またご家族の負担にならぬよう、介護用品などは施設の物を貸出し、柔軟なサービスの提供に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の紹介でのボランティアの慰問を、事業所の行事のときには依頼している。本年1月にはバリアフリー対応のお菓子工場の見学に行かれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望を大切に、基本的には馴染みのかかりつけ医での受診を勧めている。また、家族対応が困難な利用者様については、施設提携医による月2回の往診、緊急時には24時間での連携・支援体制を整えている。	訪問診療が月2回ある協力医に大半の利用者が変更しています。また医療に係る担当者がカンファレンスでの内容を反映させ医師へ報告したり、服薬チェックも責任もっておこなっています。医院が少し離れた位置に立地していますが、看取りにも理解がある医師で職員も安心です。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が健康管理を行っている。スタッフは、日々の体調の変化などを看護師に報告・相談をし、医学的な視点からの指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院前の情報を医療機関に提供し、入院中もご家族・職員・病院関係者と連携する事で、治療経過を把握し退院後の生活に不安がないように備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応について、入居者様・ご家族様の要望に応じて支援できるよう、取り組みの方針を共有している。契約締結時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明すると共に、ご家族・医師を交えて話し合いを行っている。	契約の段階で「グループホームは家」との考えを前提に「看取りまでおこないます」と家族に伝えていきます。現在もターミナルに入った利用者もあり、職員の取組み意識も前向きです。また協力医にも携帯番号を教えてもらい、24時間対応での連携ができています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・ミーティングを通じ、緊急対応の知識を習得をし、急変時の対応が的確に出来る様にしている。施設と提携医との間では、24時間連絡が取れる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回、消防署の指導のもと避難訓練を行っている。また、年1回地域の防災訓練において、ホーム入居者の避難・救助のお手伝いを取り入れており、地域との協力体制が整っている。	法定訓練を実施するだけでなく地域訓練には「高齢者の避難誘導」がプログラムに組み込まれ、40名もの中学生が事業所に立ち寄り、車いすを押したり第一避難所まで付き添っています。備蓄は法人内事業所間で協議中ですが、飲料水の確保はあります。	応急救護、夜間想定の実施、備蓄の再検討および整備が前進することを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の日常の過ごし方や、希望の違いなど認知症の症状として、帰宅願望などの症状の変化に早期に気づき、対応を変える事で状態が改善していくよう対応している。また、声掛けには入居者の人格・尊厳を尊重し十分な配慮を心がけている。	食事中に周囲の人のことが気になり頻繁に関わる利用者がいましたが、職員だけでなく言われている人も自然に受け止めている様子から、安寧の暮らしが在ることが視えます。帰宅願望には「外に行ってみる？」と声をかけ、行動を止めないように努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様個々の希望や思いを自由に表出して頂けるよう支援している。共同生活の中で全てを叶えていく事は困難であるが、説明し納得したうえで自己選択が出来るよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の生活リズムを尊重している。また、自由な生活と体調管理の双方のバランスに留意して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自室に鏡などを準備されたり、洗面所にてご自分で髪を整えている。理美容の時は職員・美容師がご本人の希望を伺い、自分らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は専門業者の管理栄養士が作成した福祉食の材料を取り入れ、高齢者が好む食事に配慮している。配膳や後片付けなどでもできる限り一緒にできるよう、支援している。	業者から材料が届き、職員が調理しています。畑で採れたさつま芋や、山芋と米ともち米を混ぜた餅を庭で焼いたり、店舗販売のロールケーキにデコレーションをしたり、汁粉を作ったりとイベント性のある食事やおやつにも力を入れています。	車いすのまま食事を摂る人もいること、検査がないこと2点への振り返りをおこなうことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を確認し、不足の場合は随時摂取できるようにしている。食事は個々の身体状況に合わせ、きざみ食やソフト食を提供している。水分は小まめに摂取できるよう、飲物の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを習慣とし、無理なく行えるよう、声掛けの配慮や個々に合った口腔ケア用品を使って実施している。ご自分で出来る方は、自立支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、排泄チェック表を用いて声掛けの実施を行っている。可能な限り、自立での排泄ができるよう、プライバシーに配慮しながら支援している。	入居当初は2時間おきに声をかけて記録をとり、早めの把握に努めています。拒否のある人も手をかえ品をかえの職員尽力により受入れてくれるようになった例や、パッドが外れ家族負担が格段に減った例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘時には水分を多めにとってもらっている。改善が見られない場合は、医師から処方されている薬にて、排便の調整を行っているが、できるだけ自然排便になるよう、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴できるよう支援はしているがスタッフの不足等で入浴の有無は職員の都合で決めてしまう面もあるが、入居者様にお伺いを立て、希望に添えるよう配慮し、支援している。	窓がない浴室ですが、最新の強力な換気・冷暖房機能もち、水垢やカビは一切なくクリアです。車いす対応のシャワーチェアは職員意見から回転式のもの導入され、利用者の足浴がより入浴に近い状態となり、満足感を高めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンがある為、日中居室で過ごす時間も大切にしている。夜間不眠の方には昼間の過ごし方の工夫を考え、提携医に相談し、指導を仰ぎ、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の作用の理解や、どんな症状に対しての薬であるか理解するよう努めている。服薬によって、症状の変化が見られた場合には、医師・看護師に症状を伝え、指示を仰ぐよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様に合った作業や、レクリエーションを行ってもらえるよう声掛けしている。お手伝いをして頂く際は、感謝の気持ちを伝えている。入居者様のそれぞれの役割や、楽しみができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	企画等で入居者様が楽しんでいただけるよう外出の機会を設けている。また、畑があり苗を植えて育てているので、職員と一緒に畑の様子を見に行ったりとホーム外での時間を楽しめるよう努めている。	フルーツパーク又はフラワーパーク、うなぎパイ工場へのドライブ外出、近くの神社への初詣、春のお花見と、2~3ヶ月のイベントをおこない、夏以外の季節には近所を巡る散歩が日課です。さつま芋、ナス、いんげん、トマトが実る事業所の畑作業も楽しみの一つです。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、管理者が管理している。必要な物品の購入時には、入居者、ご家族の希望を伺い、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの希望があれば、ご家族に電話をし連絡をとれるようにし、ご家族からの電話でも入居者様と話せるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや床、手すりは、毎日薬液により水拭きを行い、清潔の保持に努めている。季節がわかるように掲示物を作成し、明るい空間作りに努めている。	トイレ、脱衣室には上部に扉つきの収納があり、整理整頓できる設計となっています。また浴室の手すりの1つは後付だったり、照明は「明るさ」を求めて白色に替える等、職員の「気づき」による改善が見られます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは自由に移動できるようにしている。各ユニットを行ったり来たり、車椅子やシルバーカーでも移動がしやすくなっている。一人でテレビをみたり、気の合う方とお話したり、思い思いに過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な限り、利用者の使い慣れたものや、馴染みの物を持って来て頂くよう、ご家族にお願いしている。居室内は基本的には、それぞれ自由な配置、飾り付けを行っている。	防災カーテンはリースの貸し出しもおこない、3ヶ月毎の洗濯で清潔です。全体に大きな持ち込みはなくスッキリしていますが、中にはアクティビティで制作したぼんぼりや折り紙、塗り絵を飾り、化粧品を並べている居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮しながら、声掛けや介助を行い、危険を回避できるようにしている。車椅子やシルバーカーの自走、または介助にて自由に動いていただいているが、過度な介助にならないように心がけている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200376		
法人名	株式会社 宇宙 SORA		
事業所名	グループホーム えがおの里浜北 (いちごユニット 北側)		
所在地	静岡県浜松市浜北区中条1102番地		
自己評価作成日	平成28年7月29日	評価結果市町村受理日	平成28年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2297200376-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年8月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念を念頭に「その人がその人らしく」を大切に「一人ひとりの思いを尊重した介護」を目指しています。
 地域との関わりも大切にし、散歩などの際には挨拶を交わす等の、地域の方々とのコミュニケーションを図ったり、地域ボランティア活動の積極的な受け入れなど交流を図っています。
 敷地内には「えがおの里農園」と称し、季節ごとの野菜を育て、入居者の方々に手伝って頂きながら、野菜の収穫をし、食事の時に提供しています。その他に、毎月イベントやドライブ、買い物なども定期的に行う事で、季節を楽しみながら生活して頂けるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

蝉の声に囲まれて真っ白な洗濯物と木々が風にそよぐなか、トンボが舞う姿を目で追っている
 と懐かしい気持ちになる事業所です。法人内の他市事業所から異動の管理者は着任から1年となり、地域の状況把握も確かとなっています。また職員も本年2月、3月の、社内研修会で法人の方針を理解し、統括マネージャーによる目配りと「職員あってこそその～」との謙虚な姿勢でフォロー型支援を日々おこなう管理者を以て、温かい職場環境がつくられています。また本年2月から環境、身体拘束虐待防止、感染症、防災、4つの委員会が発足したことや、他法人で管理者だった人財が加わったことで新たな視点と変化が生まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念を玄関・事務所に掲示し、毎日の朝礼時に唱和している。定期的に社内研修を行い、全スタッフに法人の基本理念の意識づけができるよう、教育を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な散歩の近隣とのコミュニケーションや地域ボランティアを積極的に受け入れ、イベントを開催し交流を深めている。地域の行事にも参加したり、事業所の行事にも来て頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年1月に地域包括支援センター主催の「こんな時どのようにケア(介護)したらいいの」に法人から講師として招かれ、認知症の方を家族に持つ方が、他の悩みや支援方法を話し合う機会ができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年の9月より管理者が交替してからは、2ヶ月に1度、運営推進会議を開催している。今後も、引き続き継続的に開催し、施設運営状況の報告、議案を提示し、情報交換に努めたい。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の担当者に運営推進会議の案内を2ヶ月に1回届けている。また、特別な事情がない限りは出席して下さっている。市の担当者の方もなるべく参加出来る様になると話されている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束0宣言」を玄関、各ユニットに掲示し、スタッフも意識して介護にあたっている。小さなことでも拘束に繋がる事をスタッフ間でミーティングなどで話し合い、拘束をしない危険回避に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内での介護研修やミーティングの場などで、「何が虐待にあたるのか」正しい知識を持ち、教育を行っている。スタッフ間が注意喚起できる環境の整備と、入居者様の尊厳を尊重するような介護の実践を目指している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	スタッフミーティングを通じ、権利擁護制度に関する理解を深めている。ご家族からの相談にも応じ、必要性の可否についての検討の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居に伴う不安や、疑問の解消に努め、契約・解約・改定等、不安や、疑問点を尋ね十分な説明を行い、理解と納得をして頂いてから契約を締結している。また、締結後も疑問点等には随時説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際には、利用者様・ご家族様・職員で会話が出来る機会を設けており、そこで得られた情報を職員で共有し日々の介護に反映し、実践できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案を個別面談、ミーティング、朝礼時に個々管理者に上げるようにしており、実践している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与規定により、資格を取得した職員に対して資格手当を支給したり、職員個々の努力や実績、勤務状況を把握した上で、毎年昇給を行うなど、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりの実際と力量を把握するよう努め、介護マニュアルを活用し介護技術向上のため、研修を行っている。また、外部での研修の案内を職員に回覧し、希望者は参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年11月に、行政主催の「介護保険事業所等情報交換会」に参加し、行政や同業者などと情報交換を行った。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の生活歴や既往歴などの情報を基に、入居者の話を傾聴し、心身の状態から、できる事、できない事を判断している。傾聴しながら信頼関係を築き、他者との関わりなども観察しながら、新しい環境に慣れて頂くよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会などの際に、入居者の生活の様子や状態を伝えている。ご家族の希望や、相談を親身に傾聴し、入居者様、ご家族が安心できる信頼関係が築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望と状況を判断し、状態を見極めたうえで、必要なサービスの検討・実施を行うよう努めている。入居者にとってどうあるべきかをご家族と相談のうえ、必要であれば外部のサービスの利用ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の生活歴を活かし、グループホームでの生活が本人のペースに近付けるよう関わっている。入居者様と職員が共に暮らす「家族」のように談笑したりして、同じ目線で接し、関係を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や面会などに、一緒に過ごせる時間を大切にしている。入居者に変化が見られる時は、電話連絡し、状況の説明をしている。面会の時は、入居者の生活の様子を伝えている。家族が安心できるよう配慮し共に支えていく関係性を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が継続できるよう配慮し、面会などの時間は自由にされている。家の行事等で外出で帰宅される際は、家族と連絡を取り合い調整している。入居前までの人間関係も大切に出来るよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握し見守っている。馴染むことが困難な方には孤立しないよう座席を変えたり、職員がカンファレンスで話し合い、対応を検討している。トラブルに発展しないよう職員が間に入り、関わりを見守っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了になってからも連絡を取っているかたもいる。今までの関係性を大切に、必要に応じ相談等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりにあった過ごし方を尊重しながらまた、共同生活における他者とのコミュニケーションが取れるよう、職員が橋渡しとなり、良い関係が築けるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会等で来られたご家族との会話の中から、入居者の生活歴や、趣味などの情報を得ている。本人からも、何が楽しみなのか引き出せる会話作りを心がけ、一人ひとりに合ったケアを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや記録を活用し、職員間の情報を共有している。日々の心身の変化などについても、その原因やケア方法を職員間で話し合い、ご本人の有する力が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	身体機能の低下に伴い変化があった場合、医師・看護師に報告、相談している。また、関係者から出た意見等を職員間で共有し、統一したケアが出来るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケア実践などについては、個人記録を記入し、職員間で共有している。また毎月ケアカンファレンスを開催し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度変化する入居者、ご家族のニーズに耳を傾け、相談に乗り支援している。またご家族の負担にならぬよう、介護用品などは施設の物を貸出し、柔軟なサービスの提供に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会の紹介でのボランティアの慰問を、事業所の行事のときには依頼している。本年1月にはバリアフリー対応のお菓子工場の見学に行かれた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、ご家族の希望を大切に、基本的には馴染みのかかりつけ医での受診を勧めている。また、家族対応が困難な利用者様については、施設提携医による月2回の往診、緊急時には24時間での連携・支援体制を整えている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度看護師が健康管理を行っている。スタッフは、日々の体調の変化などを看護師に報告・相談をし、医学的な視点からの指導をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院前の情報を医療機関に提供し、入院中もご家族・職員・病院関係者と連携する事で、治療経過を把握し退院後の生活に不安がないように備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応について、入居者様・ご家族様の要望に応じて支援できるよう、取り組みの方針を共有している。契約締結時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明すると共に、ご家族・医師を交えて話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修・ミーティングを通じ、緊急対応の知識を習得をし、急変時の対応が的確に出来る様にしている。施設と提携医の間では、24時間連絡が取れる体制が整っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、年2回、消防署の指導のもと避難訓練を行っている。また、年1回地域の防災訓練において、ホーム入居者の避難・救助のお手伝いを取り入れており、地域との協力体制が整っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の日常の過ごし方や、希望の違いなど認知症の症状として、帰宅願望などの症状の変化に早期に気づき、対応を変える事で状態が改善していくよう対応している。また、声掛けには入居者の人格・尊厳を尊重し十分な配慮を心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、入居者様個々の希望や思いを自由に表出して頂けるよう支援している。共同生活の中で全てを叶えていく事は困難であるが、説明し納得したうえで自己選択が出来るよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々の生活リズムを尊重している。また、自由な生活と体調管理の双方のバランスに留意して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は自室に鏡などを準備されたり、洗面所にてご自分で髪を整えている。理美容の時は職員・美容師がご本人の希望を伺い、自分らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は専門業者の管理栄養士が作成した福祉食の材料を取り入れ、高齢者が好む食事に配慮している。配膳や後片付けなどできる限り一緒にできるよう、支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を確認し、不足の場合は随時摂取できるようにしている。食事は個々の身体状況に合わせ、きざみ食やソフト食を提供している。水分は小まめに摂取できるよう、飲物の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを習慣とし、無理なく行えるよう、声掛けの配慮や個々に合った口腔ケア用品を使って実施している。ご自分で出来る方は、自立支援を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、排泄チェック表を用いて声掛けの実施を行っている。可能な限り、自立での排泄ができるよう、プライバシーに配慮しながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、便秘時には水分を多めにとってもらっている。改善が見られない場合は、医師から処方されている薬にて、排便の調整を行っているが、できるだけ自然排便になるよう、取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	定期的に入浴できるよう支援はしているがスタッフの不足等で入浴の有無は職員の都合で決めてしまう面もあるが、入居者様にお伺いを立て、希望に添えるよう配慮し、支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンがある為、日中居室で過ごす時間も大切にしている。夜間不眠の方には昼間の過ごし方の工夫を考え、提携医に相談し、指導を仰ぎ、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の作用の理解や、どんな症状に対しての薬であるか理解するよう努めている。服薬によって、症状の変化が見られた場合には、医師・看護師に症状を伝え、指示を仰ぐよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様に合った作業や、レクリエーションを行ってもらえるよう声掛けしている。お手伝いをして頂く際は、感謝の気持ちを伝えている。入居者様のそれぞれの役割や、楽しみができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	企画等で入居者様が楽しんでいただけるよう外出の機会を設けている。また、畑があり苗を植えて育てているので、職員と一緒に畑の様子を見に行ったりとホーム外での時間を楽しめるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお小遣いを預かり、管理者が管理している。必要な物品の購入時には、入居者、ご家族の希望を伺い、購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様からの希望があれば、ご家族に電話をし連絡をとれるようにし、ご家族からの電話でも入居者様と話せるよう配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや床、手すりは、毎日薬液により水拭きを行い、清潔の保持に努めている。季節がわかるように掲示物を作成し、明るい空間作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは自由に移動できるようにしている。各ユニットを行ったり来たり、車椅子やシルバーカーでも移動がしやすくなっている。一人でテレビをみたり、気の合う方とお話したり、思い思いに過ごしていただけるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に可能な限り、利用者の使い慣れたものや、馴染みの物を持って来て頂くよう、ご家族にお願いしている。居室内は基本的には、それぞれ自由な配置、飾り付けを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮しながら、声掛けや介助を行い、危険を回避できるようにしている。車椅子やシルバーカーの自走、または介助にて自由に動いていただいているが、過度な介助にならないように心がけている。		